

## 鉛筆デッサン

## 入学試験問題

鉛筆デッサン(3時間)

## 【問題】

箸を持った手と箸を描きなさい。

## [条件]

1. 配付された箸を持つこと。
  2. 箸を持つ手は利き手でなくてよい。
  3. 包装材はモチーフではない。
  4. 答案用紙は縦横自由。
  5. 目隠しカードの上に、画面の「上」を示す矢印「↑」を必ず書くこと。
- [配付物]
1. 試験問題
  2. 答案用紙(B3画用紙)×1枚
  3. 箸×1膳
  4. 下書き用紙(B4上質紙)×2枚

## 《禁止事項》

指定された氏名欄以外への本人の氏名、受験番号等の記載を禁じます。



## 出題意図と評価のポイント

食生活に欠かせない箸と、これを持つ手をどのように描くかを見たかった。モチーフの箸の独特なプロポーションは、構図の工夫や発想で、空間感、遠近感といった余白の活かし方による魅力的な画面作りに可能性があると考えた。単純でシンプルな手と箸の構成による空間表現、箸の使い方による手の表情など、描写力にプラスされた「ものの見方」を期待して出題した。

評価のポイントは、出題意図に則した、シンプルで力強い画面構成が高評価となった。素直に描くことを期待したが、アコバティックな手のポーズも多かった。構造や質感の違う様々なモチーフで学習しているはずの本来のデッサン力ではなく、

## デザイン

## 入学試験問題

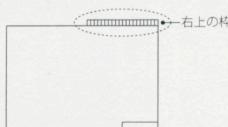
デザイン(3時間)

## 【問題】

配付された資料から数字を任意に選び、それを用いて「感情(楽しさ、うれしさ、怒り、悲しみ、笑う、泣くなど)」を自由に色彩構成しなさい。  
画面右上の与えられた枠内に20文字以内でどのような感情を表したか記入しない。(例:「喜びにふるえる感情」など)

## [条件]

1. 感情の種類は複数であってもかまわない。
2. 使用する数字の数、大きさ、使い方は自由。
3. 使用する色数は自由。
4. 描画画面は与えられた紙面全体とする。ただし余白は白地とみなすので全面を塗りつぶさなくて良い。
5. 答案用紙は横位置使用。
6. 右上枠内の文字書き込み部分は塗りつぶさないこと。



## [配付物]

1. 試験問題
2. 資料(A3)×1枚
3. 答案用紙(B3ケント紙)×1枚
3. 下書き用紙(B4上質紙)×3枚

## 《禁止事項》

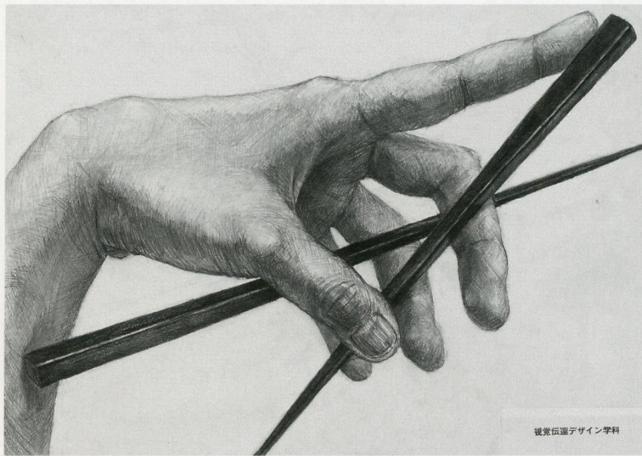
指定された氏名欄以外への本人の氏名、受験番号等の記載を禁じます。

## 出題意図と評価のポイント

与えられた数字は、私たちが普段日常の中で使用している最も普通の記号の一つだが、この問題ではあくまでも構成における素材として与えられている。一方、求められたテーマである「感情」とは、そもそも人間の心の中の状態なので感情そのものに、ある明快で決まった形があるわけではない。それらをどのように色彩と形態によって表現するか、といいうことがこの問題の出題のポイントである。「感情」そのものは見えないが、普段の生活中で私たちは例えば表情や身振りや動作、声の抑揚等を通して読み取りかつ、表している。また、その為にはまず回答者がどのような感情を表現しようとしているかを「ことば化」することを求めた。言葉には具体的な感情に加えて「沈み込む」とか「踊るような」とか「抑えられない」とか「ふつぶつ」といった情景(形

容詞)とでも言い得るもののが含まれており、これらも表現する際の重要な指針となるだろう。つまり何かに置き換えることによって、不可視のものを可視化するというヴィジュアル・コミュニケーションの原型がここにある。以上の出題意図に基づいて、作者がどのような感情をいかに表現したか、それが自らの意図に沿って適切に表現されているか、またそれが私たちに実感を持って伝わっているかが評価のポイントである。結果的に提出された作品は具象的な状況描写から抽象的な表現まで多様な表現があった。採点においてはその多様性を尊重しつつ、着眼点、解釈のユニークさ、空間(画面)構成のダイナミズム、リアリティ(ことばと表現の説得力)、色彩(美しさや適切な使用)などを基準にして行った。





視覚伝達デザイン学科

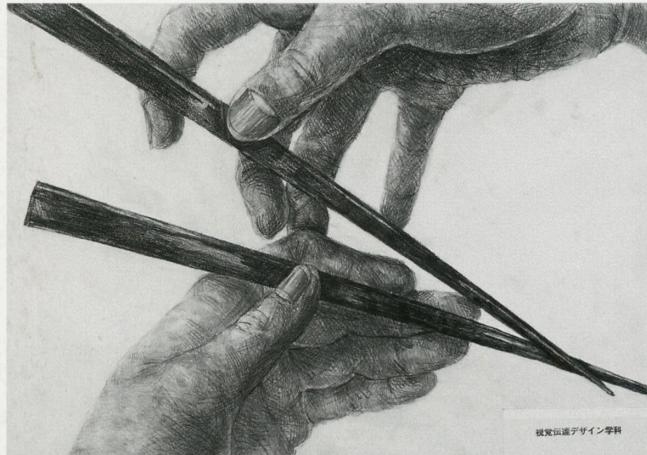
#### 教員コメント

ミケランジェロの天地創造の象徴的部分を思われる手のポーズに、採点者は良くも悪くも大いに反応した。手のひら側にできる空間、画面を最大限に活かした構図など、作者のデッサンの力量を感じる。回り込み部分にできるアウトラインは没骨法を意識し、消具の使い方などによる一工夫があってよいだろう。



教員コメント

クロスさせた箸と、これを持つ手がXになるような動きのある構図が良い。手や箸に大きさや充実感があるのが良い。人差し指と中指のつながりに、やや不自然さはあるが、丁寧な描写や堂々とした構図で魅力的なデッサンになった。



視覚伝達デザイン学科

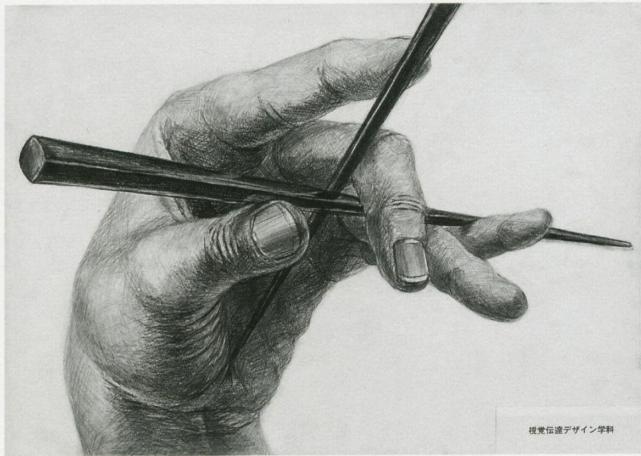
#### 教員コメント

本課題の課題文の解釈として、両手で持つ箸を描く作品は想定の範囲だったが、3時間の短い時間で両手を入れるという挑戦に、作者の自信が溢れ出ている構図だ。形態の狂いや手の大きさのアンバランスさを越えてその積極性が光っている。



教員コメント

箸の機能である、ものを挟むということをしっかりと意識したデッサンである。無理のない箸使いが丁寧に描かれており、好感が持てる。手のひら側に空間や奥行き、余白部分に空間的な拡がりの意識があれば更によいデッサンとなつただろう。



視覚伝達デザイン学科



視覚伝達デザイン学科

#### 教員コメント

横位置の画面を有効に使った構図だ。2本の箸が交差し揃るぎない十字架のような構造と指がからむ。まるで鉄棒に足をかけているようにも見えるのは、箸を支える接点と指の力のかけ方のバランスが心地よいからだろう。

#### 教員コメント

このユニークな手の見せ方は印象深い。手というモチーフでありながら、まるで別のモノを思い起こさせる。それでいて、確かに自分の手でこの仕草をすれば、光の回り込みや箸の方向など思わず納得してしまう。



視覚伝達デザイン学科



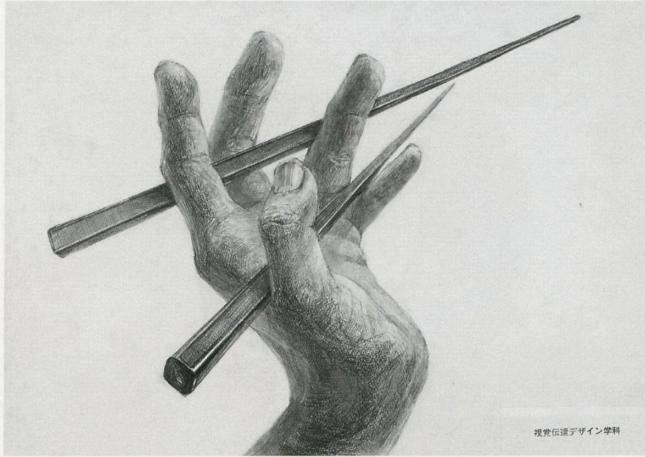
視覚伝達デザイン学科

#### 教員コメント

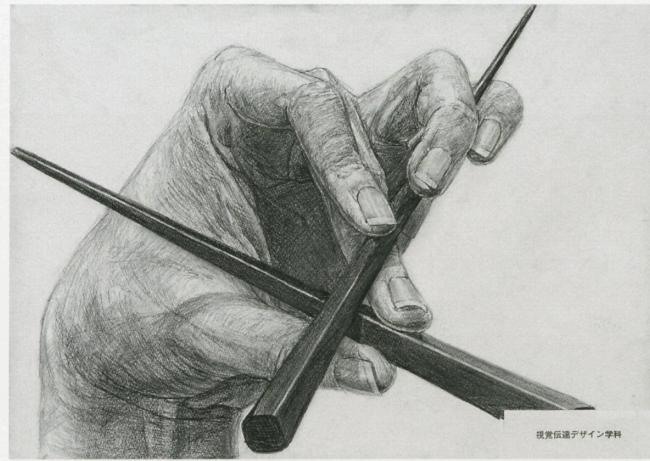
出題者は、当初正しい箸使いを想定して出題した経緯がある。問題文をどう読み解くか、どう解釈し展開するか、というひねり技もあってよいが、出題をシンプルに素直に受け入れる作者の本分は、この学科に必要な資質であると思った。力強いデッサン力に相まって、この作品はこの点を評価した。

#### 教員コメント

この作品は、手首までが箸を支える構造になっている。人差し指と中指と薬指の支点と親指、さらに手首の向こう側の3点でこの箸を持っている。手を描く訓練をしっかりとやってきた作者の学習がこうした構成力から伺える。



視覚伝達デザイン学科



視覚伝達デザイン学科

#### 教員コメント

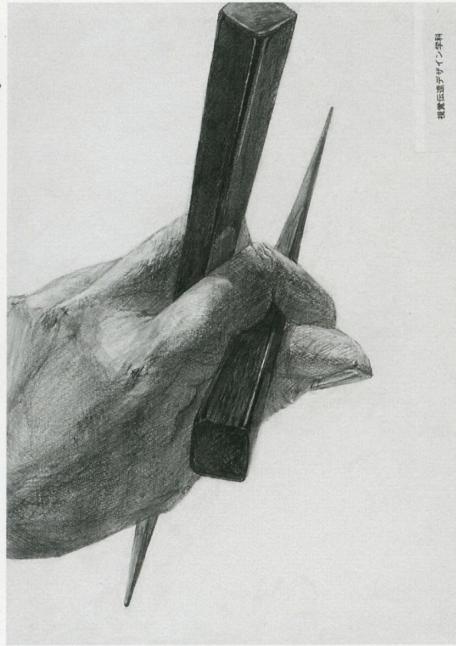
出題の意図にあるように、余白が空間感や遠近感を表すことに、最大限の工夫を感じさせる構図である。右側の空間表現は、これだけのスペースがありながら、退屈さを感じない奥行きや拡がりを感じる。手首の関節の構造の描写が弱いので、この部分を更に描くことができれば申し分ないデッサンである。

#### 教員コメント

箸を持つ手をいろいろな角度から観察したのだろう。箸の断面の正方形と直線による奥行きと人の手の有機的な動きを活かした力強い構図から「この箸を持つ手を、こう見せたい」という強い意志を感じる作品だ。



視覚伝達デザイン学科



視覚伝達デザイン学科

#### 教員コメント

思わず、この人は右利きなのか左利きなのかを考えてしまう。両手を入れると観察する手とそれを描く手があるのだから、本当に難しい事に挑戦している。箸を左手の手のひらで支えている行為に、優しささえ感じる作品だ。

#### 教員コメント

極端なパースを付けたこの作品は、評価が分かれた。しかし、今回のモチーフである黒檀の箸にはこの黒さと太さと特徴的な四角錐にある。この黒さと形態に強くひかれ、質感にこだわる作者の魅力が伝わってくる。



表情をゆがめてしまうような怒り。

#### 教員コメント

マグマのように融けて癒着した数字がひしめき合い、飽和点に達した怒りの感情を表している。数字どうしの接面に僅かに現れた黄色、緑、青の色面も、画面の大部分を占める赤色に対してアクセントとなり、緊張感を増す効果を生んだ。



互いに流れ込み、混ざってゆく感情

#### 教員コメント

混ざってゆく「途中経過」がよく表現されている。細い線やぼかしをうまく使い、液体の粘度がよく表れていて、感情が混ざってゆくさまがうまく表現されている。

54



悲しい涙が雨のようにポツポツ広がる

#### 教員コメント

構成要素の核は、「涙」に見立てた円弧状の0と8。不規則な形状のブルーのグラデーションは漆黒の水面に落ちた雨の波紋。そのままが揺れ動く「悲しみ」を的確に表している。



あまりの悲しさに泣きわめく

#### 教員コメント

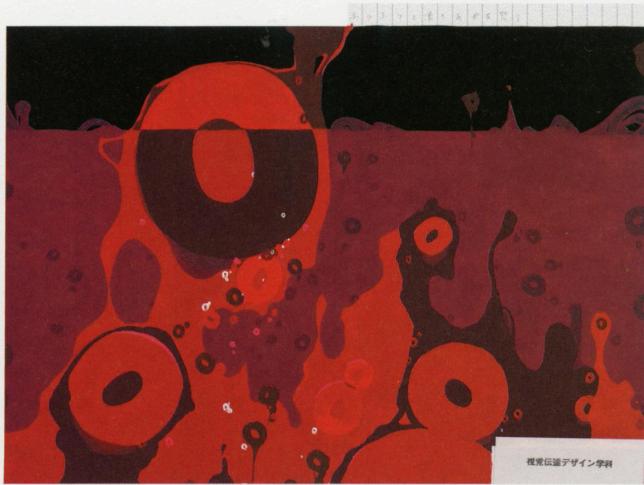
口の部分は同系色、目の部分は補色が重なるようにすることで、目の部分の動きがより強調されている。そのことで「泣きわめく」様子、そして「悲しさ」がよく表現されている。



たまりにたまつた悲しみがあふれてしまった

#### 教員コメント

彩度の低い青い色のみで構成された画面が陰鬱な物悲しさを際立たせている。界面に溜まった数字が絞られて零のように重れていく様子も、ガランとした紺色の空間との対比で、深い悲しみの情感を効果的に表現している。



ふつふつと湧きあがる怒り

#### 教員コメント

血の海の沸騰する「怒り」が赤の明度差の調整だけで、べっとりした粘着性の質感までもよく表現している。0を泡に見立てて構成しているが、1文字だけでも十分な効果を出している。



おもいきり叫ぶような喜びの感情

#### 教員コメント

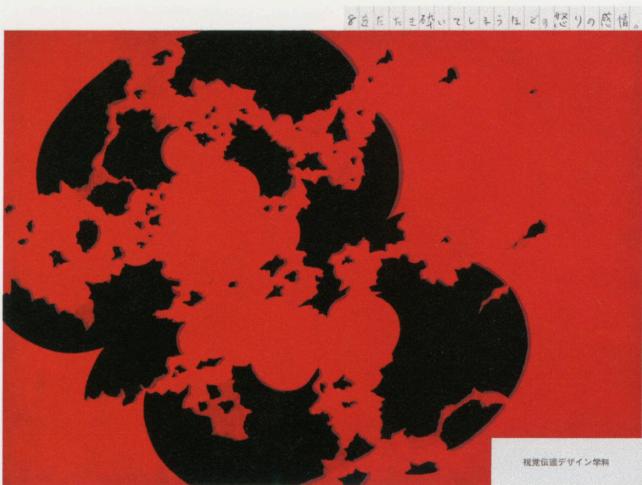
赤と黒の諧調であたかも太陽のフレアの様に、拡散してゆくまばゆい光を描き「叫ぶような歓喜」をよく表現している。数字6とCの形と文字の筆致を巧みに使った秀作である。



仲間とハイタッチ！倍になる嬉しい気持ち

#### 教員コメント

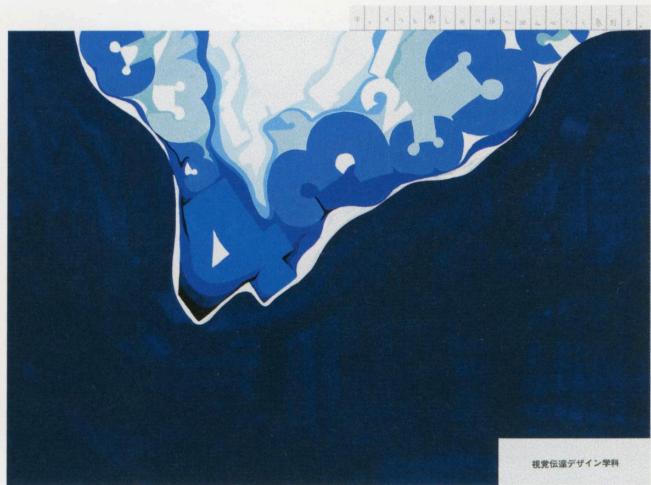
背中合わせにした非対称の円弧状の3と9、さらに0を散らすことでの「ハイタッチ」を表現。全体の色調を暖色のグラデーションでまとめつつも、白と補色のグリーンをアクセントにして「倍になるうれしい気持ち」を表現している。面と線のバランスも秀逸。



8をたき碎いてしまうほどの怒りの感情。

#### 教員コメント

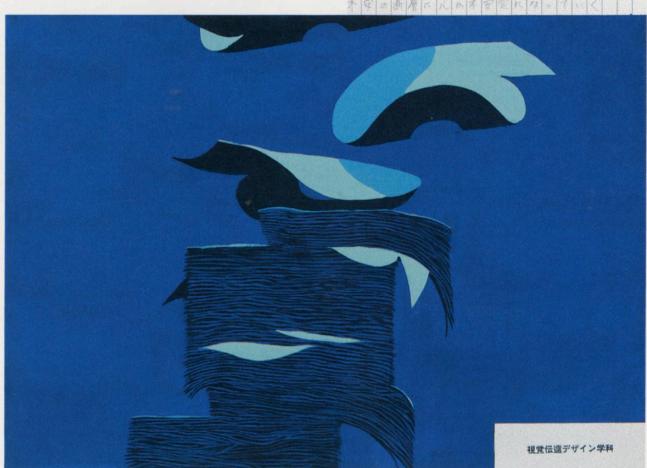
一見、何の数字を使ったのかわからないが、よく見ると「8」を使っていることがわかる。上部がより割れるようにバランスを工夫することで「怒り」をよく表現している。



ゆっくりと悲しみの底へ沈んでいく気持ち。

#### 教員コメント

ゆっくりとメルトダウンしている心情が、背景の深い青を置くことで強調されている。数字の数が増えほど明度を低くすることにより、「憂鬱さ」を獲得している点が評価される。



不安の断層に心が不安定になっていく

#### 教員コメント

青一色の画面の中で、僅かに緑がかかったブルーの光の表現が効果的で、画面に奥行きを与えるとともに、ふわふわとめぐれしていく不安定な心の動きも表している。均一で単調な青の背景と、不安定に積み上がった数字との対比も面白い。



気分がはずむ楽しさ

#### 教員コメント

数字のフォルムを変化させた緩やかな面と線の動的構成は「はずむ楽しさ」。また重なり合う数字は、今まにはずもうと待機する「楽しさ」。その二種類のフォルムの構造によって「気分がはずむ楽しさ」を過不足なく表現している。